



1

PUBLIC DOMAIN

令和4年度 長野県公共図書館長会議 <話題提供>

ウイズコロナ時代の公共図書館経営を考える

～「市町村と県による協働電子図書館」と「これからの公共図書館研究会」を中心に～

2022年6月3日（金）
県立長野図書館 森 いづみ

CC BY SA

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

図書館経営とは？ 図書館長の役割とは？

2

ざっくり
まとめると

- 公的サービス機関として：
 - ✓ 役割に応じ、リソース（モノ、カネ、ヒト）を最大限活かした、より良い住民サービス
 - ✓ 予算の確保、施設・設備の整備、体制の整備、人材育成
 - ✓ 自治体の目標達成や課題解決、関係部署との連携
 - ✓ 自治体を越えた連携、住民との協働…など
- 図書館の特徴として：
 - ✓ 目的：国民の教育と文化の発展に寄与する（図書館法第1条）
 - ✓ 手段：知識や情報を収集、組織、保存し、要求（ニーズとシーズ※）に応じて提供する
（住民が情報を入手し、芸術や文学を鑑賞し、地域文化の創造にかかわる場「公立図書館の任務と目標」）
 - ✓ 対象：全住民（乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育に資する「公立図書館の任務と目標」）
 - ✓ リソース：図書館には、「資料・情報」、「空間・場」、「人」の3つの要素がある

公的サービス機関に
共通する要素

図書館
ならではの要素

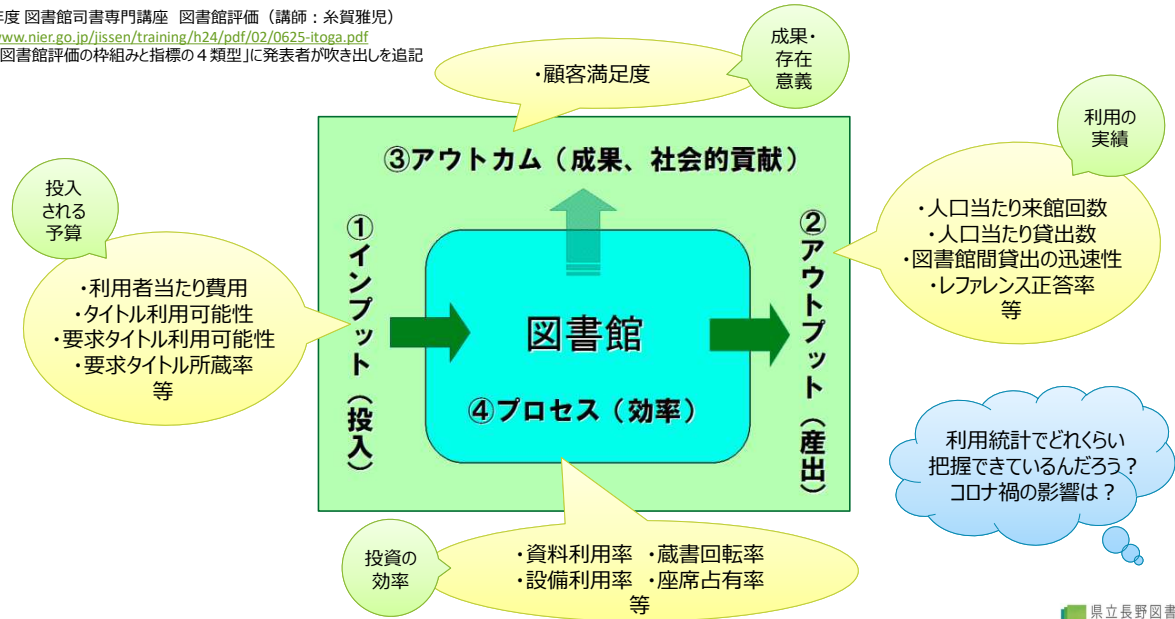
※シーズ【seeds】《seedの複数形》 JapanKnowledge 小学館『デジタル大辞泉』より
種（たね）。実。もと。原因。根源。
顧客の求めるニーズ（needs）に対して、企業が新しく開発、提供する特別の技術や材料のこと。
新製品の開発では、ニーズとシーズのバランスが重要となる。

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

図書館経営を、評価の基本的な枠組みから考えてみる

3

平成24年度 図書館司書専門講座 図書館評価（講師：糸賀雅児）
<https://www.nier.go.jp/jissen/training/h24/pdf/02/0625-itoga.pdf>
 「第1図 図書館評価の枠組みと指標の4類型」に発表者が吹き出しを追記



県立長野図書館
 Nagano Prefectural Library

コロナ禍と図書館の利用動向（県立長野図書館の場合）

4

- 2020年4月～5月（緊急事態宣言→休館）
 - ✓ 全国の公共図書館休館率：約92%
 - ✓ 長野県内公共図書館休館率：約70%、相互貸借実施率：50%
 - ✓ 県立長野図書館貸出率：5%（95%減）
- 令和2（2020）年度利用実績
 - ✓ 入館者数：対年度比 77%
 - ✓ 貸出冊数：対年度比 85%
 - ✓ インターネット予約・貸出：1.4倍
 - ✓ 電子申請による利用登録の開始・定着
- 令和3（2021）年度
 - ✓ 入館者数、貸出冊数ともに持ち直したが、年度末に第6波の影響があった
 - ✓ 相互貸借の数：1.2倍

「お取り寄せ」貸出サービスの実施
 （通常、館外貸出ししない参考図書も
 含め、送料実費で宅配）
 →貸出がゼロにならなかった

人流データの分析結果から、
 行動変容を可視化
 コロナ前：来館の翌日に再来館
 コロナ禍：2週間後に
 再来館のピーク

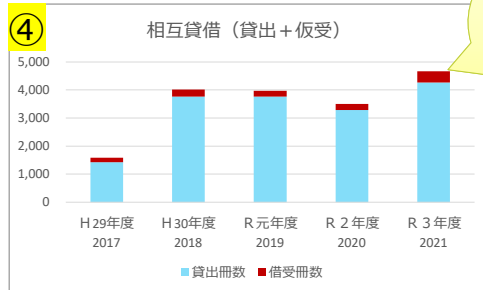
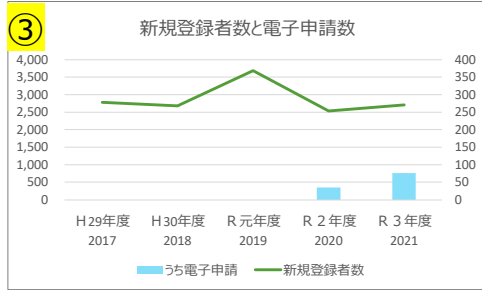
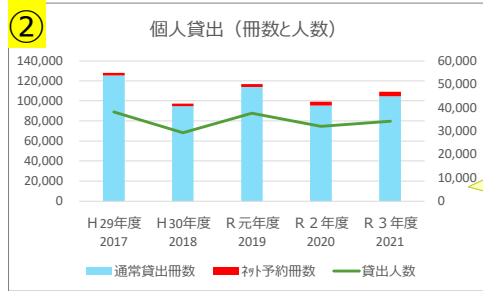
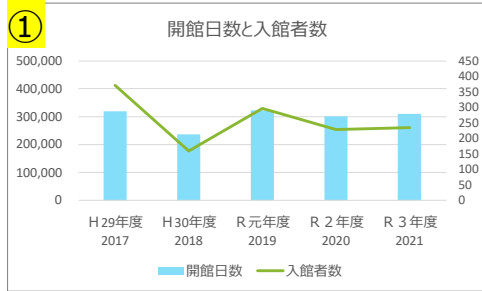
「ながの電子申請サービス」は、
 全ての市町村で導入済み
 →各図書館・室での活用
 可能性あり

ユーザの行動変容を
 新たな強みに！
 もともとあった課題を
 解決していくチャンス！

県立長野図書館
 Nagano Prefectural Library

コロナ禍と図書館の利用動向（県立長野図書館の場合）

5



外出は控えているが、貸出欲求は衰えていないと推測

①入館者数の減り方より貸出数の減り方が緩やか
④相互貸借は増えている

②ネット予約冊数
③電子申請数
オンライン活用が増加傾向にある
⇒全体数の中ではまだ少ない

新たな動機付け
新たな顧客開拓で、更に増える可能性？

⇒電子図書館！



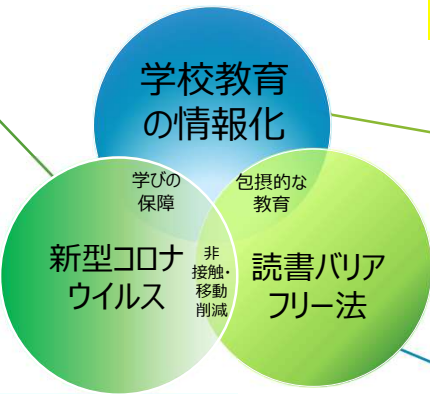
「電子図書館」に期待すること

6

「電子図書館」サービスの導入→3つの社会課題の解決の糸口に

①

- 感染症や災害など、どのような状況でも利用者の学びを継続できる。
- 利用者は自宅にいながら図書の貸借が可能。人流抑制にもつながり、感染リスクの低減を図ることができる。



②

- 児童生徒がPC・タブレットを使いこなす中で、探究的な学習を助け、参考書や問題集などでの学びも提供可能。
- 地理的条件や特別な配慮が必要な子も含め、全ての子どもに学びの機会を提供可能。
- 児童生徒が無償で使える電子書籍で教育格差の是正につながる可能性。

戦略として、どこに力を置くか？

- 事業全体として
- 各自治体として

③

- 音声読み上げ「文字拡大・ハイコントラスト」等、情報への接しやすさが向上。
- 視覚障害のみならず、聴覚障害、知的障害、高齢者、外国人等や、施設入所者、病院入院患者、子育て中や介護で外出がしにくい等、さまざまな状況によって図書館の利用や読書が困難な人に、情報を得る手段を増やすことが可能＝「情報保障」手段のひとつ。
- 公正な社会、共生社会の実現に向けた取り組みの推進が可能になる。

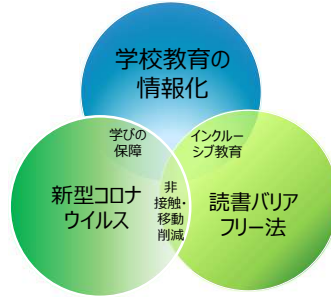


「電子図書館」に期待すること

7

そもそも図書館の本来の役割は

- すべての住民が自由に「情報」へアクセスできる基盤をつくること



3つの社会課題に同時に
向き合う手段の一つが、
「電子図書館」

- しかし、単独では
予算面、運用面で
ハードルが高い

市町村と県とが協働して電子図書館のサービスを構築

①

✓ 書籍へのアクセスを保障

「感染状況」「災害」等になるべく影響されず、図書館サービスを提供し続ける環境をつくる。

②

✓ リーチを拡げる

「地理的条件」「生活スタイル」「特別な配慮の要否」等により、図書館を利用しにくかった人たちに、サービスを提供する。

図書館利用率：
住民の3割程度
→残りの7割への
アプローチ！

DX推進課 / DX Promotion Div.

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

アウトプット、アウトカムを見える化する

8

● 協働電子図書館の利用者IDの仕様と目的：

- ✓ 識別番号（市町村：Mor県：P）1桁 + 市区町村コード（下3桁） + 利用者生年（西暦4桁） + 市町村・県の図書館利用カード番号（桁数任意）

- 市町村ごとの住民の利用実態について、統計が取れる
⇒ニーズの把握ができる
- 年代・世代ごとの利用動向が見えてくる
⇒プロモーションをするターゲット
⇒選書方針への参考になる
- リアル図書館の利用実態との比較（新たな顧客層の開拓状況）や、相乗効果が確認できる
⇒県の電子申請を用いて電子図書館を利用している住民数も市町村に報告

留意事項

- 「図書館の自由宣言」の趣旨に則り個人IDと電子書籍貸出情報の紐づけは行いません（データを持たない）
- ビッグデータとして統計処理を行いサービス向上に役立てます

● 投資効率の向上への期待

- ✓ 住民の図書館利用率、蔵書（電子書籍）の貸出回転率の向上

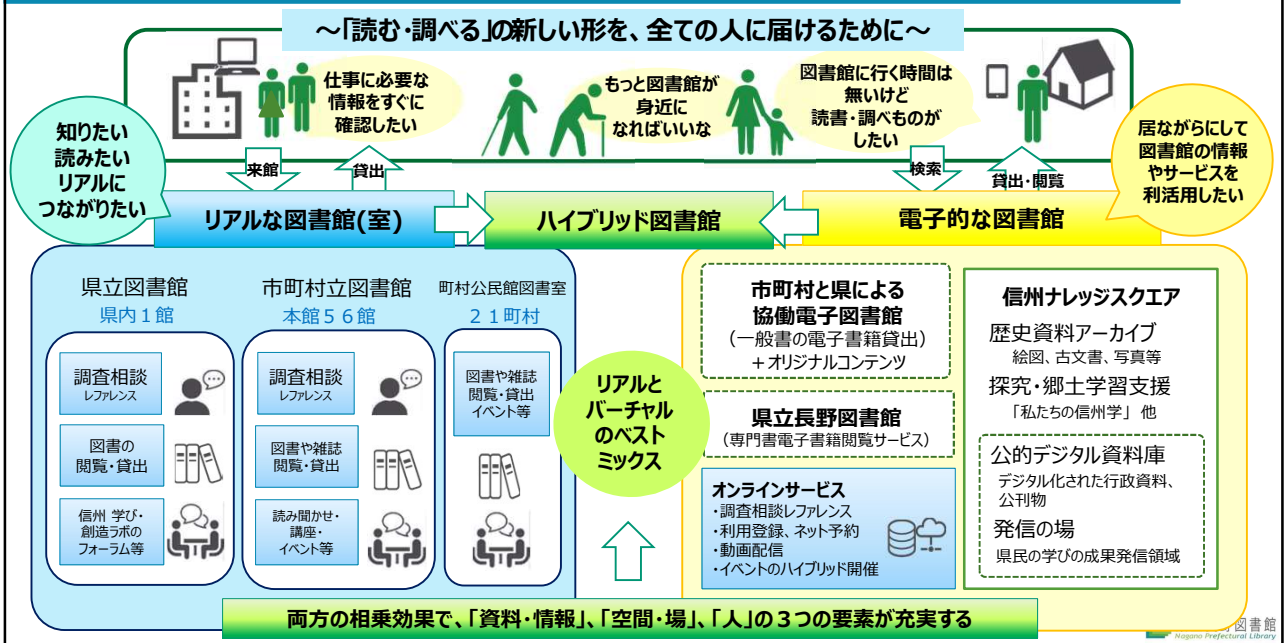
● 顧客満足度向上への期待

- ✓ 地域の活性化、課題解決力の向上、図書館の存在意義、予算要求の根拠へ

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

電子書籍サービス導入後の図書館利用イメージ

9

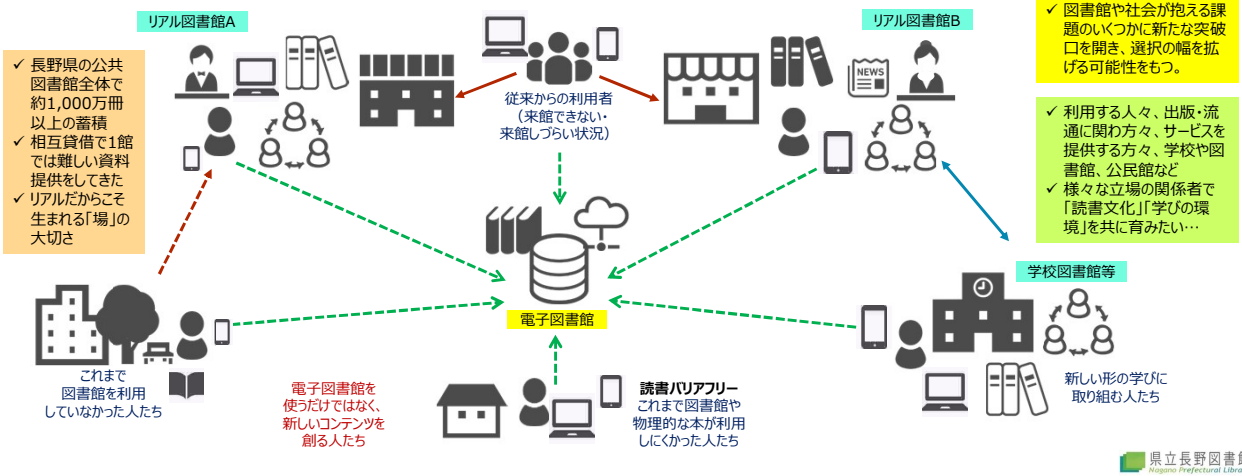


目指していきたい将来像 (地域の発展につながる図書館経営へ)

10

全ての人が「知る」「学ぶ」姿のベストミックスを選択できる⇒学ぶ力の向上・地域の活性化

- 人・地域・情報が直接つながりあう「リアルな図書館」と、ICT等を活用した「バーチャルな図書館」の良さが合わされる
= ハイブリッド図書館 ⇒ 地域の課題解決力の向上、新しい価値の創出へ



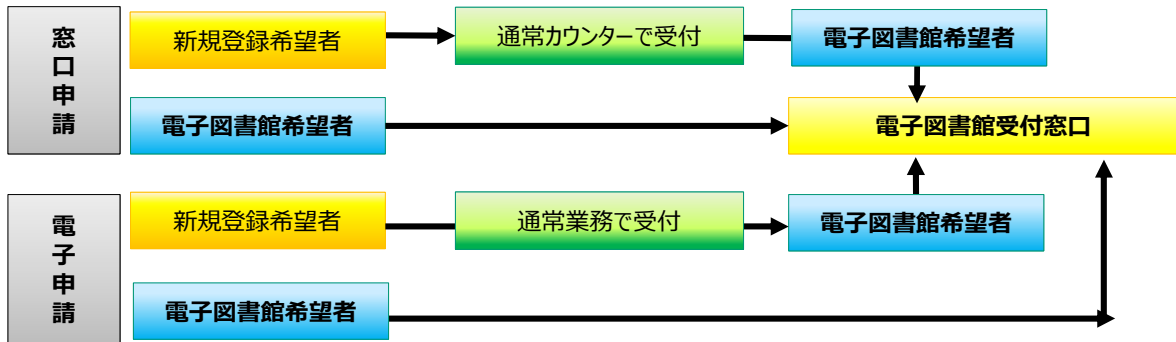
県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

電子図書館対応の体制について（県立長野図書館の場合）

11

● 事前の利用申込受付体制：

- ✓ 通常の業務と並行して、電子図書館専用窓口を一時的に開設



- ✓ 対応者の人数や、専用窓口設置期間は、状況を見ながら調整（当初：資料管理課長中心に数名で対応⇒ノウハウ共有）

増え続ける業務を効率化する・一度止めてみる⇒ノウハウの共有へ

12

● DX推進による効率化の観点から：

- ✓ 図書館ID管理・運用の改善
- ✓ 条例改正などを伴わない形で、図書館の利用カードを既に持っている人向けの電子申請のフォーム等、ノウハウ共有予定

● 県立図書館内の業務見直し・効率化の状況：

- ✓ 修理業務：修理が必要な資料は、その場で買い替えの判断を実施
→軽度な修理のみ実施、重度の修理は買い替えへ
- ✓ 督促業務：3か月以上の延滞者のみ督促電話
→連絡がつかない場合は除籍
- ✓ 統計業務：男女別統計の廃止→データベース利用状況
新規登録利用者数、貸出冊数（検討中）
発行年ごと統計の廃止→書庫出納データ
頻度の変更（毎月→四半期）→（詳細）貸出冊数

たとえ良いことだと分かっていても、仕事は増え続ける一方。人手は足りないし、新たな知識・スキルも必要という、悩み……

地域と共に成長する図書館を支える職員：人材育成のために

13

●さまざまな研修機会をご活用ください

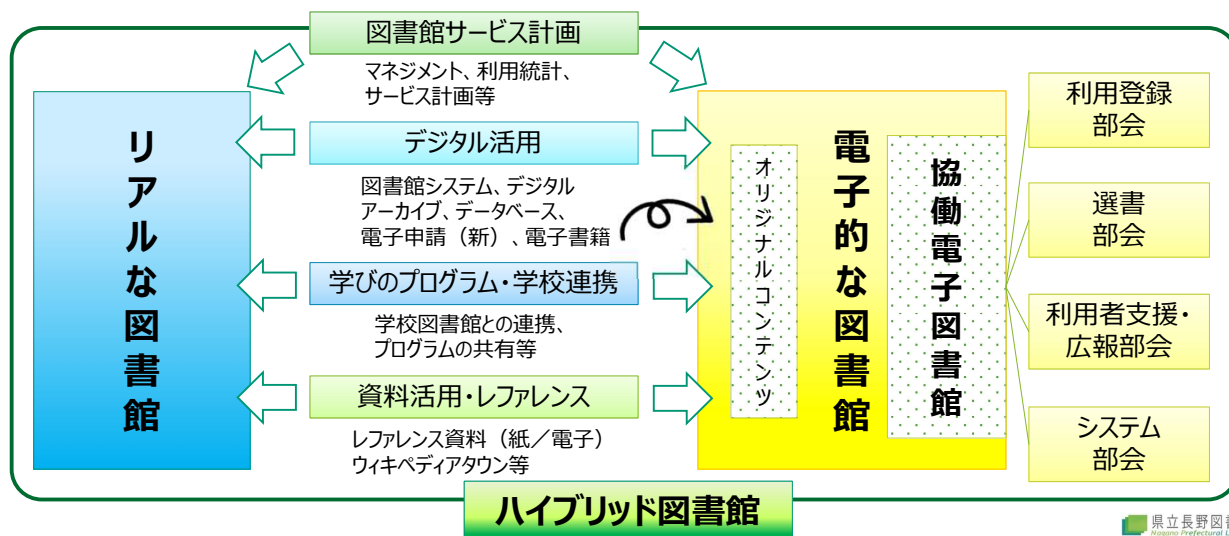
- ✓ 書面審議：公共図書館部会総会資料「令和4年度事業計画」、研修計画
 - 【重点事業】ICTの活用によって、持続性・発展性が高い図書館業務・サービスを目指す
 - 令和4年度は、特に協働電子図書館を推進する
- ✓ これからの公共図書館フォーラム：
 - 年間4回程度開催：MLで随時ご案内
 - 9月3日（土）テーマ「電子図書館、どう育てる？（仮）」
 - 講師：北海道デジタル出版推進協会（HOPPA） 林下会長、札幌図書・情報館 浅野館長
 - 県内の印刷・出版・図書館界が同じテーブルにつき、郷土資料をオリジナルコンテンツ化する方策を考える
- ✓ これからの公共図書館研究会（通称「これ研」）：
 - 中堅職員研修としての位置づけで、2019年度～4つの研究会を実施。2021年度の参加者：108名
 - 長野県の公共図書館職員が、主体的に参加、運営する中で、未来につながる課題や悩みを共有し、それぞれの経験や実践を持ち寄り、伝え合い、教え合いながら、みんなで成果を形にすることを目的に、館や地域を超えてつながり合う会
 - 図書館サービス計画、デジタル活用、学びのプログラム・学校連携、資料活用・レファレンス

 県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

「これ研」と協働電子図書館の「部会」との関係性

14

- 「これ研」：ノウハウ共有・研究の場
 - 「部会」：得意分野を運営に生かす場
- } 館を越えたOJT(On the Job Training)の効果に期待


 県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

「これ研」参加者の声

15

県内の各館の方々の取り組みの実例を自館で紹介し、自館のレファレンスの参考にさせていただくことがいくつもありました。

参加者の方が積極的に実例を紹介していただいたおかげだと思います。

同じ会に参加させていただいたよしみで、部会のメンバーの方に、別件業務で連絡を取らせていただくなど、図書館間の連携にも役立てさせていただくことも出来ました。【資料活用・レファレンス】

サービス計画の必要性は理解しつつも、なかなか作成まで至らない現状です。他館のものを見せていただくととても参考になりました。

次年度は、統計関係の話がもう少しできると嬉しいです。【図書館サービス計画】

分科会に出た担当者が、他の職員に各分科会でどんなことを話し合ったか報告する機会を設け、全体で共有するようにしています。県内のいろいろな情報を共有できるよい機会なので、ぜひ今後も継続開催をお願いします。【デジタル活用】

会計年度職員なので予算や総合計画等詳しくわからない面もあるのですが、他自治体の館長さんたちの話を聞きながら、自分なりにできることをあれこれ考えるのは勉強になる時間でした。【図書館サービス計画】

経験が浅く、いつも確実な回答ができるか不安に思っているのですが、たくさん情報交換ができて勉強になりましたし、モチベーションも上がりました。レファレンスはベテラン職員がいないと館内での研修がやりづらいと思いますので、今後も研修にはぜひ参加していきたいです。【資料活用・レファレンス】

各図書館が実際に行っている事例を知ることができたのはもちろん、そういった学びに関する情報を共有できる場に参加することができた。【学びのプログラム・学校連携】

2021年度の
感想から



「これ研」のグランドルール⇒協働電子図書館とも共有できそう

16

●これから研究会グランドルール



みんなで、やる。

共に目指す、これからの図書館を考える



みんなが、やる。

それぞれの館が、できることを探す



みんなと、やる。

ときどき集まり、思いや悩みを共有する

●「みんな」の一員になるために

●参加しやすい**環境**

(オンライン会議、開催時間の調整等)

●参加しやすい**心情**

(職場の後押し、理解と応援)

年3回ほど
2h予定

●**フラットな場づくり**

(経験や立場にとらわれない関係性)

5月18日付けメールで募集中・応募締切：6月18日（金）

